

RESTART!

Challenge More

(夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略)

概要版

平成 28 年 (2016 年) 3 月
夕張市

夕張市の現況

● 現状・課題・目指すべき将来の方向性

【総人口の減少傾向】

- 平成 27 年度国勢調査結果速報によると平成 27 年 (2015 年) 10 月 1 日現在における夕張市の人口は 8,845 人。
- 国立社会保障・人口問題研究所 (以下「社人研」という。) の分析によれば、夕張市の人口は平成 27 年 (2015 年) 時点で 9,257 人、平成 52 年 (2040 年) 時点で 3,883 人と推計されていたが、すでにこの推計を上回る速度で人口減少が進んでいる。

【社会増減に関する現状・課題】

- 直近 5 年間は、平均で 200 人/年の社会減少。
- 10~20 代の若者のみならず、60 歳以上の高齢者が、転出者のうち 3~5 割を占める。
- 市外から通勤して夕張で働く就業者は 800 人以上。
- 通勤者が夕張に住む場合の住宅は、民間賃貸住宅への居住意向が最も高い。
- 夕張高校に進学する生徒が減少。卒業生の多くが市外へ。
- 一方、夕張には自然環境等の多様な資源や強みがある。

【自然増減に関する現状・課題】

- 直近 5 年間は、平均で 180 人/年の自然減少。
- 高齢化率が 48% (H27 時点) と、全道的にも突出した高さであり、総人口の自然減傾向は避け得ない。
- 夕張の合計特殊出生率 (1.32) は、北海道 (1.28) より高い。
- 現在いる子ども人数は、理想の子ども人数よりも約 1.01 人少なく、産科小児科の医療環境の不便さや子育て・教育費などの負担、仕事との両立がネックとなっている。

【目指すべき将来の方向性】

- 転出抑制・定住促進により、**社会減少を抑制**
 - ・若年世代が住みやすい生活環境を整備し定住促進
 - ・魅力的な教育の場や将来の夕張を担う人材育成
 - ・夕張の強みや資源を活かした**雇用の場の確保**と新たな**交流人口**の拡大

【目指すべき将来の方向性】

- 結婚・出産・子育てへの障壁解消により、**自然減少を抑制**
 - ・子育て支援策の充実だけでなく、**仕事・医療等の施策展開**により、子どもを生子、育てる環境を改善
 - ・合計特殊出生率を **2040 年に 1.93** とすることを目指す

人口ビジョン

●人口の将来展望

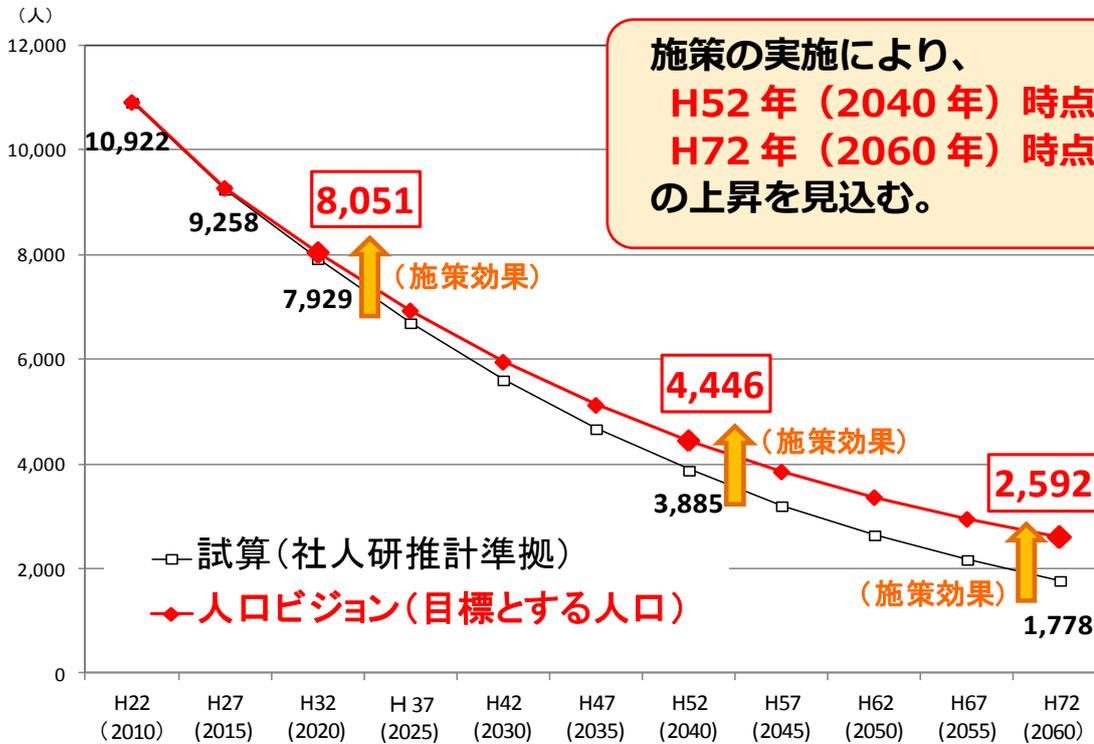
【目標値】

平成 52 年 (2040 年)

平成 72 年 (2060 年)

総人口 約 4,500 人、合計特殊出生率 1.93

総人口 約 2,600 人

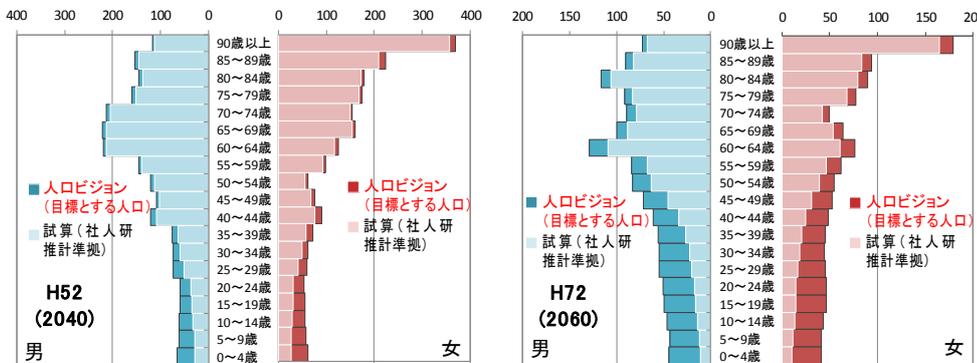


施策の実施により、

H52 年 (2040 年) 時点で約 600 人

H72 年 (2060 年) 時点で約 800 人の

上昇を見込む。



● 施策効果が最も大きく現れる対象は、次代を担う若い世代。

● 対策が早く講じられ、出生率が早く向上すればするほど、将来人口に与える効果はより大きなものとなる。

●市全体で共有する基本認識

① 人口は減少するが、減少の仕方は変えられる

・人口減少そのものは止められなくても、減少の仕方は抑制することができる。課題に対して、前向きに「挑戦」していくことが肝要。

② 早期対応の必要性：「いつかやらねば」を「今すぐやる」へ

・着手が早ければ早いほど、将来人口に与える効果は大きくなる。問題を先送りせず、可能な限り早急に対策を講じていくことが、将来の希望に繋がる。

③ 人口減少社会での「自分らしく暮らせるまち」

・厳しい数字を直視しつつ、それを楽観するのでも悲観するのでもなく、そこに「挑戦」し、少しでも人口の減少を食い止める努力をしながら、たとえ人口が半減しても「自分らしく暮らせるまち」をつくることこそが大切。

総合戦略

● 戦略の基本理念

- 夕張市は財政難、人口減少（少子高齢化）、人口に比して過剰な数かつ老朽化した公共施設など、これからも途切れることのない「課題」が随時発生してくる。しかし、この「課題」こそが夕張の強みでもあり、果敢にチャレンジすることから新しい価値を創造していく役割を担っている。
- これからは出来ない理由を主語にせず、「夢」を主語にチャレンジするまちに変われることを宣言し、夕張文化の基礎でもある「挑戦」「誇り」「思いやり」から、基本理念を定め再スタートを切る。

ゆうばり PRIDE ～「誇り」

RE START ! Challenge More !

～ 夢を主語に、挑戦するまちへ ～



夕張市はこれまで何度も苦境に立たされ、その度に所謂「ヨソモノ」（市外から流入してきた人々）の力を借りながら、ともに乗り越えてきた。今一度その姿勢を思い起こし、外部の人々と交流し、その知恵を借りながら、ともに挑戦し解決していく。

ゆうばり POLICY ～「らしさ」

いちざんいっか 現代版「一山一家」のまちづくり

～ ゆるやかな結びつきで、互いを尊重し思いやれるまちへ ～



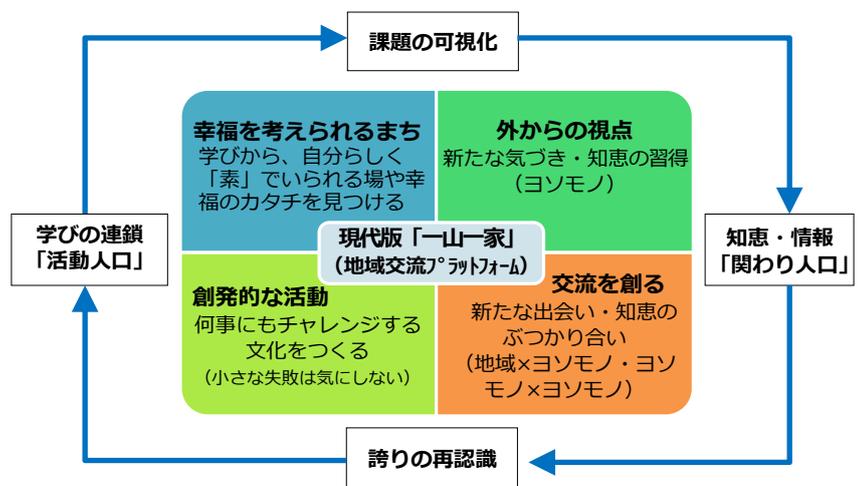
かつての「一山一家」(*)は、いわば他人が家族になるという非常に密接な距離感であったが、現代社会の生活文化は、むしろ自分から他人との距離感をつくる傾向にある。

夕張はその中庸、ほどよい距離感を保ちながら、互いを思いやれるような関係性のまちを目指す。

※「一山一家」～ 炭鉱は炭鉱マンだけではなく、集落や家族も含めて一つの共同体＝炭鉱(やま)として成り立っており、炭鉱(やま)全体で一つの家族として互いに助け合い、結びついて生活していくという考え方。また、そうした生活文化の歴史。

● 戦略の考え方・基本方針

- 「課題」をオープンにすることで多様な人材の「交流」から知恵を修得する一方で、「小さな挑戦」や「再スタート」を目指すヒトを受入れ、共に学びながら、そのヒトが自分らしく、虚栄をはずすに「素」でいられる「場」や、幸福の「カタチ」を創ることのできる「ダイバーシティゆうばり」（共生社会）を目指していく。



- 「ヒト・モノ・カネ」が夕張に還流する仕組みづくりを目指す。
- 一人ひとりが役割を考え、自ら学び、活動する地域の人材「活動人口」と、夕張市のまちづくりに多様な関わりをもってくれる人材「関わり人口」を増やすことで、地域を豊かにするための人材を確保していく。

● 戦略の柱・アクションプラン

戦略の柱

【戦略1】

若者の定住と子育て支援

「住宅不足の解消」による社会減少の抑制と、「子育て環境の充実」による自然減少の抑制という、大きく2点に分けて展開する。

- 数値目標 (H31)
・ ~40歳の市内移住(年間) …40人

【戦略2】

新たな人の流れ・交流人口の創出

地域で活動する人材「活動人口」と、まちづくりに多様な関わりをもってくれる人材「関わり人口」を増やすことで、住民基本台帳上の人口を補完し、地域を豊かにするための人材を確保する。

- 数値目標 (H31)
・ 観光客数 …70万人
・ 宿泊者数 …11万人
・ 関わり人口 …1,000人

【戦略3】

地域資源を活用した働く場づくり

地域創発型の仕事づくりや、働く側の都合に配慮した「働き方」を産業連携により創出する。

- 数値目標 (H31)
・ 高齢者や子育てママ資格取得 …5人
・ ズリ山事業関連雇用 …10人
・ CBM関連雇用 …10人
・ 障がい者の就労の場 …20人
・ 農業粗生産額 …24億円

【戦略4】

夕張の未来を創るプロジェクト

地域に誇りを持ち、地域の未来を語ることでできる人材の育成を、幼稚園・保育園から高校まで連携して実施する。また、外との交流による「知恵」の修得や地域外との交流を促進する。

- 数値目標 (H31)
・ 郷土愛教育満足度 …80%
・ 夕張高校への進学希望者率 …70%

【戦略5】

持続可能なまちづくり (コンパクト化・拠点形成)

「安心して幸せに暮らせるコンパクトシティゆうばり」の実現を目指す。

- 数値目標 (H31)
・ 南北軸への新規住居創出 …100戸
・ 交通結節点の構築 …1

主なアクションプラン

● 若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備

これまで市で実施してきた民間賃貸住宅建設助成の条件を調整し、部屋数や家賃設定、収納やデザインなど、若年層や女性のニーズに合った住宅の建設を促進する。
(KPI) H31…40戸建設

● 子育て支援センターの整備による子育て支援体制の強化

交通結節点を有する拠点施設の建設と子育て支援センターの設置により、効率的な交通体系を構築するとともに、放課後の子どもやバスを待つ市民の居場所、親子がともに過ごせる空間等を形成する。
(KPI) H31…建設

● 「活動人口」と「関わり人口」を繋ぐ地域交流プラットフォームづくり

現状のバラバラな取組みを改め、交流効果(知恵・経済効果)が市内に還流する仕組みを担い、将来的な夕張版DMO(観光地域づくりの舵取り役を担う法人)設立をも見据えた、地域交流プラットフォームを構築する。

● みんなの力でつくる「石炭博物館再生プロジェクト」

地域住民が恒常的に通いながら、学習や余暇を通じて誰もが主役となる関係性が構築され、まちの外から夕張を支援しようとする人々も関わることができる博物館へ再生する。
(KPI) H31…入館者数3万人

● 高齢者や子育てママが働きたいと思う仕事づくり

女性が活躍できる場を整備することで、サービス提供者となる女性が地域社会から感謝され、必要とされる「やりがいのある仕事」を創出するとともに、サービス受給者となる市民にとっても過ごしやすいまちづくりを目指す。

● 農業者、農協、市の連携による産地力強化

農業者・農協・市で構成する夕張市農業振興協議会を軸に、「夕張メロン」などの担い手の確保・育成や生産技術の均一化、新規販路の開拓、高付加価値化などの諸課題を検討し、持続的で安定した、力強い、調和のとれた産地力強化を目指す。

● 課題から希望を創る高校魅力化プロジェクト

高校、PTA、行政が連携して夕張高校の魅力化に着手し、学習塾との連携や資格取得支援のほか、指導者の招聘・既存運動施設の開放等を通じた「部活動強化」を展開していく。更に、市外から生徒を受入れるための学生寮や下宿の整備、交換留学による「新しい人間関係構築と交流促進」を推進する。
(KPI) H31…夕張高校への入学者数40人

● 石炭産業の歴史と文化映像化・語りペ育成事業

実際に炭鉱で働いていた「生き証人」たちの言葉を映像媒体で記録し、夕張市が育んだ石炭産業の歴史と文化の記憶を次代に残すとともに、それらを教材とした郷土愛教育を通し、自らの故郷について誇りを持ち、語ることでできる人材の育成に努める。
(KPI) H31…語りペ20名

● 都市拠点機能の整備によるコンパクトシティの推進

まちづくりマスタープランに示すとおり、清水沢地区への拠点施設整備や、各地区の強みを活かした魅力化及び集落機能のスリム化、更に集落間連携(ヒト滞留)を推進していく。

● 補てん型から利用型の公共交通体系の構築(交通結節点整備・デマンド交通)

公共交通体系のスリム化、観光タクシー要素も組み込んだデマンド交通実証実験の継続等、コンパクトシティゆうばりの実現に向けた動きを強く推進していく。